

歌集(みだれ髪)表紙(堺市博物館蔵)



さかい与謝野晶子
青春の短歌大会

選歌集

海こひし潮の遠鳴り数へつつ少女となりし父母の家

言葉のおもみが若い心に

この「さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」は、それまでの「与謝野晶子短歌文学賞」を受けつぎ、晶子短歌の魅力を次世代に伝えることをめざし、昨年度からはじまりました。第一回大会は新型コロナウイルス感染拡大のために表彰式・選評会・講演会などの開催が中止になり、今年度の応募状況を心配していました。おかげさまで第二回大会も全国から49校の学校、7,449首の応募がありましたことを喜んでおります。

その多数の応募から厳選された入賞、入選の作品は、いずれも青春のみずみずしい感覚にあふれています。言葉のおもみが若い心にあらわれる短歌の魅力を実感しています。

今回も選者の今野寿美様、堺歌人クラブ会長の小西美根子様、与謝野晶子倶楽部常任委員の勺禰子様には、たいへんお世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

与謝野晶子倶楽部会長 太田 登

歌を詠む楽しさを

与謝野晶子を顕彰し、若い人たちに短歌を詠む楽しさを味わい、継承していったほしいという主旨で、昨年創設された「さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」。

今年も多くの関係各位のご協力のもと、第2回大会を開催できましたこと、とても喜ばしく、心より感謝申し上げます。今回も全国の多くの高校から7,449首もの作品が寄せられました。

いまだコロナ禍の中にあり、学校生活においても行事の延期や中止、オンライン授業など落ちつかない日々にもかかわらず、多数の投稿をいただき誠にうれしく存じます。一首ごと丁寧に読ませていただきました。高校生の歌はやはりどれも元気があり前向きな心に読む方も励まされます。若い人ならではの機知等もすばらしいものがあります。

この短歌大会がますます発展し、継続していくことを切に願って止みません。

堺歌人クラブ 会長 小西 美根子



第2回さかい与謝野晶子 青春の短歌大会

次第

令和四年一月二十三日（日）於 さかい利晶の杜

表彰式 十三時三十分～十四時 一階観光案内展示室

選評会 十四時二十分～十五時 一階茶室

講演会 十五時十分～十六時十分 一階茶室

テーマ…もっと知りたい『みだれ髪』

講師…今野寿美



大正期の晶子（文化学院蔵）

第2回 さかい与謝野晶子 青春の短歌大会開催に際して

この度「第2回さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」が無事開催の運びとなり、開催に際しご尽力賜りました関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

また、今回は7,449首もの作品が日本全国から晶子のふるさと・堺の地に寄せられましたこと、大変嬉しく感じております。

短歌を通して、青春の1ページを見事に表現された皆様の豊かな才能と感性に大きく期待するとともに、今後のご活躍を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

さかい利晶の杜 館長 隈元 英輔

与謝野晶子の表現世界とその生き方に触れる

さかい利晶の杜 与謝野晶子記念館

『みだれ髪』に始まる多くの詩歌集を出版し、また、『源氏物語』の現代語訳や社会問題、教育問題にかかわる評論活動まで行い、明治・大正・昭和という激動の時代にあって、常に新しい世界に挑戦し、表現し続けた晶子の姿を紹介する文学館です。



さかい利晶の杜

Sakai Plaza of Rikkyo and Aiko

〒590-0078 堺市堺区宿院町西2丁1-1 TEL 072-260-4386
<https://www.sakai-rishonomori.com>



目次

主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2回さかい与謝野晶子青春の短歌大会	
表彰式・選評会・講演会次第	2
さかい利晶の杜（共催者）	2
目次・・・・・・・・・・・・・・・・	2
短歌賞ヒストリー	3
選者紹介	3
選考経過	3
入賞作品	4
最優秀校	6
入選作品	7
	10

短歌賞ヒストリー

全国を展望する恒久的な与謝野晶子顕彰事業として、第1回「与謝野晶子短歌文学賞」は堺歌人クラブ会長を実行委員長とし平成7年に堺市で開催されました。その後、平成15年の9回からは、産経新聞社主催で開催いただくことになりました。



泉陽高校にある「君死にたまふことなかれ」の詩碑

産経新聞社主催での与謝野晶子短歌文学賞が第24回をもって休止したことを受けて、与謝野晶子倶楽部と堺歌人クラブが堺市と連携し、令和の新时代に与謝野晶子の魅力を広く発信するため、青春の短歌に焦点をあて、新たに「第1回 さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」を開催し、本年度第2回大会となりました。開催にあたり、産経新聞社と与謝野晶子の出身校である大阪府立泉陽高等学校には継続し協力をいただきました。

選者紹介

こんの
今野 寿美氏



1952年東京都生まれ。歌誌「りとむ」編集人。宮中歌会始選者。昭和54年に「午後の草」で第25回角川短歌賞受賞。平成元年に『世紀末の桃』で第13回現代短歌女流賞、22年に『かへり水』により第37回日本歌人クラブ賞ほか。歌集に『若夏記』『龍笛』『さくらのゆゑ』など。『24のキーワードで読む与謝野晶子』『みだれ髪訳注』『歌ことば100』『森鷗外―短歌という詩型に生涯愛情を持ち続けた文豪』など、与謝野晶子、「明星」をめぐる著書がある。

選考経過

令和3年度の「第2回さかい与謝野晶子 青春の短歌大会」では、高校生を対象に短歌の募集を行いました。募集は、6月1日から9月7日の期間で実施し、全国の高校49校、4,631名から7,449首のご応募がありました。北は秋田県から南は福岡県まで全国の高校生からたくさんの応募をいただきました。学校単位の団体応募は45校で、最多の投稿をいただいた高校は、1,088首でした。

選考については、1次選考を堺歌人クラブで行った上で、今野寿美氏に最終選考をお願いしました。上位9首並びに選者賞を入賞とし選評をいただくともに、63首の入選歌を選んでいただきました。また、複数の入賞や入選を果たした学校から最優秀校を決定いたしました。

大賞

夢みてた生活の日々まぼろしで
「普通」の言葉特別と知る



静岡県立浜松湖南高等学校 小林 樹奈

「この時代ならではの歌にしようと思って考えたのがこの歌で、今の気持ちをそのまま表現しようと思いついた歌がこうして評価していただけて嬉しいです。」

選評

自粛を強いられて、当たり前が通用しなくなった異常社会。十代らしい表現で夢くだかれたせつなさを伝えていきます。大いに共感を呼ぶ一首です。

与謝野晶子倶楽部賞

暗い部屋天井見つめ僕を見た
見えるものを見ず見えぬものを見た

京都府立朱雀高等学校 篠 虎太郎

選評

一心に自分と向き合おうとする意志の歌と読めます。内面に降りてゆくいつときの貴さを思いました。

堺歌人クラブ賞

ありがとう当たり前にも日々感謝
何気ない日もまた一度きり

大阪府立鳳高等学校 木下 和奏

選評

今の社会状況をよく心得たうえでの堅実さに好感をもちました。特に下の句が巧み。

さかい利晶の杜賞

シャーペンを持つと感じる重力はスマホなどより絶対重い

静岡県立浜松湖南高等学校 山田 侑星

選評

「スマホなどより」という言い回しから、スマホ依存の危うさを察しているのだと思われます。自ら文字を刻むことを尊ぶ趣旨に心強さを覚えました。

堺市長賞

今はもう愛おしくさえ思えるよ雨の日に待つ長蛇の列が

大阪府立住吉高等学校 船井 徳佳

選評

一時は一斉休校となり、登下校も外出もなし。上の句、誰もが肯く嘆かわしさを的確に伝え、かつ親しみやすいフレーズになっています。

堺市教育長賞

夏祭り勇気をだした告白は花火の音に負けてしまった

京都府立朱雀高等学校 田島 汐理

選評

恋は不首尾に終わったけれど、下の句の言いにくいのはなかなか楽しいです。来年こそ！

大阪府知事賞

突然に太鼓のバチ折れ仲間とは代わりがないもの心も折れぬ

大阪府・関西学院千早国際高等学校 橋目 昌也

選評

よほどのことがないと折れそうにないだけにしばし呆然ですね。語りがいつか仲間の大切さに重なって、それが歌の奥ゆきにつながっています。

大阪府立泉陽高等学校賞

ごめんねとその一言が言えなくて言い訳ばかり言ってごめんね

大阪府・関西学院千早国際高等学校 菅野 安美

選評

案外素直に出てこない「ごめんね」を一首の中にうまく配置してむしろ軽快な印象もありますね。歌の構造をさりげなく生かしています。

産経新聞社賞

夏休み思い出らしきものがないこの悲しさが思い出なのか

大阪府立鳳高等学校 田部 隼

選評

学校の夏休みを誰ひとり満喫できない二年でした。心から同情しつつ、こうして歌に詠んで憂さをはらしているらしい印象がいにじらしいとも思えました。

選者賞

孤独とは一人で過ごす者でなく泣いても人に知られない者

大阪府立三國丘高等学校 坂本 健太

選評

人間社会の真理を堂々と言った明快さが見事です。あまりに鋭い直観がどこか哀しみを帯びて、それゆえに美しいとも思えました。

文系が「短歌と俳句共に素数」聞いた理系が「差は半素数」

京都府立嵯峨野高等学校 野間 琉之介

選評

思いがけず数学的思考を刺激されるおもしろさ。短歌31音と俳句17音、その差は14すなわち素数の 2×7 で半素数。高校生の会話の切れ味がすばらしい。

描かれる漫画もそつと好きになるとりの席の僕であります

埼玉県・浦和明の星女子高等学校 木本 奈緒

選評

彼女はよくさらさらつと漫画のペンを走らせて、それがまたすごくいい、と思えてしまう。もちろん見ぬふりに見ているだけだけど。なんてかつこいい恋の歌。素敵です。

最優秀校賞

大阪府立鳳高等学校

(大阪府)



大阪府立鳳高等学校

【俳歌人クラブ賞】

ありがとう当たり前にも日々感謝何気ない日もまた一度きり

【産経新聞社賞】

夏休み思い出らしきものがないこの悲しさが思い出なのか

【入選】

夜十時目の前にある課題たち夢の中では終わっていたのに
いつか見る景色のために球を追いつ共にとりた甲子園の土
いつだって仲間と過ごした毎日はずくのように輝いている
春がきて新たな道を進んでくさよならでなくまたねと言おう
コロナ禍で予定していたホームステイいつの間にかステイホームに
友達と空を見上げた帰り道アニメのような雲にときめく
ペンを持ちペンを置いてはスマホ見る無限のループの終わりはいつか
テスト中紙をべらりとめくる音聞こえてきたら焦りはじめる
唐突に明るくなったり重くなったりそんな空気を読めるわけない

木下 和奏

田部 隼

立江 奏

野波 圭吾

中垣 彩

池辺 輝

大倉 綾夏

大西 友香

宮野 桜子

池田 優奈

豊浦 風羽

入選

水無月の夕暮れ時はうつしだす人の心も空の模様も

徳島県立小松島高等学校 山田 夏海

苦しさをこらえて走ったがむしやらの笛で視界がにじんだ

徳島県立小松島高等学校 湯浅 真愛

夏の青檸檬かじって夏の顔ふたりの夏は甘くはない

大阪府・大阪商業大学高等学校 吉田 有志

今日からは勉強しようと決意してまですることは部屋の片付け

静岡県立浜松湖南高等学校 鈴木 音透

先生が英語でジョーク皆爆笑大草原に一人残され

大阪府立住吉高等学校 野坂 梨帆

涼風^{すずかけ}に遠く教師の声流れ湿った髪に塩素の匂い

大阪府立住吉高等学校 小池 凪

遺言に伝えたいこと残してた頑固な祖父はほんとに不器用

愛知県立豊橋西高等学校 早崎 莓亜

白桃の産毛を洗ふ君のピアスからはひかりの音がしている

埼玉県・星野高等学校 田中 望結

向日葵のようにまっすぐ君の目を見るのにちよつと慣れてきたんだ

埼玉県・星野高等学校 渡部 美咲

マスクごしほほえみかけられ目があつてコロナの中でも恋は始まる

大阪府立富田林高等学校 稲留 くるみ

明日^{あす}やろう明日^{あす}こそやろう時過ぎて気付けば明日は無くなっている

大阪府立富田林高等学校 清水 栞夏

争うも夏のきまぐれどしゃぶりに君が笑った僕もつられた

大阪府立富田林高等学校 西浦 彩音

君からのラインの返信悩む夏こんな悩みが続けばいいのに

大阪府立富田林高等学校 村上 颯

「さ」と打つと予測されるのあなたの名私が打つのは「さよなら」だけど

大阪府・関西大倉高等学校 平岡 花音

恋人のはっきりしない反応に海藻みたいな僕の心

大阪府・関西大倉高等学校 山本 尚昌

暮れなずむ夕日背中に風を切り今ひたすらに青春を漕ぐ

大阪府・関西大倉高等学校 粕谷 環太

風に乗るしゃぼん玉がすぐ散った自分を映すはかない鏡

大阪府・関西大倉高等学校 岩佐 隆広

「大丈夫」その一言の裏側に気づいてくれる特別なひと

大阪府・関西大倉高等学校 小柴 郁海

知るもんか「帰ろう」なんて言わせない線香花火よまだ落ちないで

秋田県立秋田高等学校 菅野 円香

歩きつつ振り返りつつ歩きつつここまで来たねまだまだ行くよ

堺市立堺高等学校 橋野 浩志

青い青春はそう書くけれど春より夏のイメージがある

堺市立堺高等学校 伊丹 琉翔

これで何回心を殺したのかきつと心は見えない世界で生きたがってる

大阪府立布施高等学校 藤井 カノン

寂しいとおどけて言うのは昔から本気で言うと涙こぼれる

大阪府立布施高等学校 山中 美乃里

嘔せるのは吸気の中に紛れ込む桜吹雪の一片からか

大阪府立三国丘高等学校 川崎 礼

伊賀の国駅の中には投句箱令和の時代に芭蕉の色あり

大阪府立三国丘高等学校 井川 朋哉

手の中の羽を切られた文鳥はそれでも空に飛び立とうとした

大阪府立三国丘高等学校 井上 真宙

長袖のシャツを着てみた公園のキンモクセイの香りしたから

大阪府立三国丘高等学校 藤野 茉咲

帰り道あなたの頬を染めたのはほんとに夕日のせいだろうか

大阪府立三国丘高等学校 弓場 十碧

「出来る」より「やりたい」のほうへかけてみる文理選択期限は明日

大阪府立三国丘高等学校 日野 はるか

鰯雲顔を無くした人々の行き交う姿二度回る季節

大阪府立三国丘高等学校 石田 遥人

シュワシュワとかがやきはじけ消えていくソーダに似てる僕らの青春

大阪府立金岡高等学校 樋口 紗来

外は雨人ごみの中に君見つけかけよれなかった心にも雨

大阪府立金岡高等学校 坂谷 彩乃

繋がった想いの糸の綻びを紡いで編んで心になってく

大阪府立金岡高等学校 平池 莉音

いつもそう口から出るのはひとかけら心の声のただひとかけら

宮城県宮城第一高等学校 只野 禾埜

ありえない九時間^{いこうる} 一秒は布団かぶればなぜか成り立つ

福岡県立明善高等学校 日高 翔太

坂道を綺麗に彩るヤマザクラ時は別れを鈍感にする

山口県立柳井商工高等学校 中井 太河

夜十時目の前にある課題たち夢の中では終わっていたのに

大阪府立鳳高等学校 立江 奏

いつか見る景色のために球を追う共にとりたい甲子園の土^{けしき}

大阪府立鳳高等学校 野波 圭吾

いつだって仲間と過ごした毎日はしずくのように輝いている

大阪府立鳳高等学校 中垣 彩

春がきて新たな道を進んでくさよならでなくまたねと言う

大阪府立鳳高等学校 池辺 輝

コロナ禍で予定していたホームステイいつの間にかステイホームに

大阪府立鳳高等学校 大倉 綾夏

友達と空を見上げた帰り道アニメのような雲にとぎめく

大阪府立鳳高等学校 大西 友香

ペンを持ちペンを置いてはスマホ見る無限のループの終わりはいつか

大阪府立鳳高等学校 宮野 桜子

テスト中紙をぺらりとめくる音聞こえてきたら焦りはじめる

大阪府立鳳高等学校 池田 優奈

唐突に明るくなったり重くなったりそんな空気を読めるわけない

大阪府立鳳高等学校 豊浦 風羽

エアコンは地球のためにつけないで冷えピタ貼って寝ている家族

東京都・星美学園高等学校 佐々木 夏香

人肌^{ひと}が離れていくほど恋しくて今は届かぬニメートル先^{はな}

東京都・星美学園高等学校 渡邊 紗耶香

雨雲は西の空からやってくる君住む街に雨を降らせて

東京都・星美学園高等学校 鈴木 るりか

打球音グラブをかすり過ぎてゆく砂ぼこりだけ残したままで

大阪府立泉北高等学校 池田 正駿

青空にぼつりと浮かぶ白い点誰も月って気づかないんだ

大阪府立泉北高等学校 川瀬 悠

骨折って大会欠場原因は鬼ごっこだなんて絶対言えない

大阪府立泉北高等学校 継岩 晃太

皆が言う「相手の気持ち考えよう」言われた相手悲しんでない？

京都府立嵯峨野高等学校 杉岡 来郁

あのときにこの砂浜に来たあとに波は何回押し寄せたのか

京都府立嵯峨野高等学校 藤田 愛咲子

好きという言葉に込める思いなんて裏があつたりなかつたりして

岐阜県立飛騨神岡高等学校 井上 実咲

手帳の白空に蓋する灰の雲モノクロばかり夏の随想

大阪府立泉陽高等学校 林 歩樹

ひぐらしの鳴く声響く回廊の穏やかな孤独少し風吹く

山口県立防府高等学校 磯部 伊織

将来を考えるとふと思う「考える人」の気持ちはこれか

東京都立府中高等学校 荒川 正治

課題っていくらやっても終わらないそれってなんか人生みたい

大阪市立水都国際高等学校 松葉 悠悟

壮大な緑で我を待ち構^{かま}う飛び降りてみよ夏の清^{きよ}水^{みづ}

大阪府・関西大学第一高等学校 的場 一樹

清^{きよ}水^{みづ}の道^{みち}をみんな^{みな}で進^{すす}むほど縮^{ちぢ}んでいくのは心の距^{きょ}離^りか

大阪府・関西大学第一高等学校 宮原 楽人

二人行く雨のしたたる清水の光が差せば遠くなる肩

大阪府・関西大学第一高等学校 岸本 太一

入^い射^{しや}角^{かく}四^{よん}十五^{じゅうご}度のまなざしが君^{きみ}にぶつかり二^に千^{せん}度の頻^{ひん}

富山県立富山中部高等学校 若木 美来

美術部の会議の終わりの雷鳴にくもの子ちらし二人になる

岸和田市立産業高等学校 樋本 さくら



与謝野晶子のプロフィール

与謝野晶子 [明治 11(1878)年 12 月 7 日 - 昭和 17(1942)年 5 月 29 日]

堺市甲斐町の菓子商駿河屋二代目鳳宗七とつねの三女として生まれました。本名は鳳(ほう)晶(しょう)。幼少期から帳場の手伝いのかたわら源氏物語に親しみ、大阪府立泉陽高等学校の前身にあたる堺女学校を卒業後は、詩歌の世界にめざめました。新しい詩歌の旗手であった与謝野鉄幹(寛)と出会い、「明星」を代表する歌人として活躍し、第一歌集『みだれ髪』は石川啄木ら当時の文学青年たちに多大の影響を与えました。その後も「君死にたまふことなかれ」や多くの秀歌を発表し、「日本女詩人の第一人」として時代の頂点を極める存在になりました。

晶子は『春泥集』『夏より秋へ』などの詩歌集だけにとどまらず、小説集、童話集、評論集、歌論書のほかに『新新訳源氏物語』『新訳紫式部日記・新訳和泉式部日記』などの古典の現代語訳を刊行し、さらにヨーロッパから帰国後は、女性の自立と地位の向上をめざした評論活動、教育活動にも大きな功績を残しました。明治、大正、昭和という激動の時代にあって、すぐれた「先見性」と「国際性」をもって「表現者」として真摯に生きた晶子のメッセージには、21 世紀を生きる私たちにも勇気と感動を与えるものがあります。

主 催・・・与謝野晶子倶楽部、堺歌人クラブ

共 催・・・さかい利晶の杜

後 援・・・大阪府、堺市、大阪府教育委員会、堺市教育委員会

特別協力・・・大阪府立泉陽高等学校、産経新聞社